いわき未来づくりセンター（会長・櫛田市長）は15日、いわき市の経済・景気の動きの調査報告「トレイル」の14号を発行した。18年第Ⅱ四半期（4～6月期）の状況がまとめられている。年4回発行されている「トレイル」だが、今回は巻頭言と巻末の「ひとくちコンパス」に焦点を当ててみる。

いわき型 小さな政府を

トレイル 14号

大経済学部の大川信行教授が、経済四方山話と銘打ち、『新』地域間競争について記している。前段で「全国の回復基調持続をよそに、いわき地域の景況感は停滞」と指摘した上での、鋭い提言でもある。

国が地域の自助努力の必要性を強調する中にあって、地域（いわき）の自主的な取り組みがいかに成されるべきか――。大川教授は、審議会の運営方式の改善なども挙げており、議論を尽くした上での改革こそ意味がある、としている。

◇

「トレイル」では前号より、市制施行40周年に合わせ、巻末「ひとくちコンパス」で〝データで見るいわき市の40年〟を連載中だ。今回は「工業」がテーマ。統計によると、製造品出荷変化している。昭和41年当時は化学工業284億円、非鉄金属製造業123億円、食料品製造業97億円がトップ3で、この3部門で約70%を占めていた。平成16年のトップ3は、電気機械器具製造業3295億円、化学工業2330億円、輸送用機械機具製造業1441億円、この3部門で約66%を占めている。

また製造品目の構成比も

政府」の構築を説いている。いわき型＝広域都市ゆえの非効率性を補うシステムを指す。距離を克服できる情報の活用や、都市機能をコアとサブに分けるといった、コンパクト・シティを目指すべきというものだ。

第二に掲げたのは「行政システムの構築」。改革推進の基本として、政策決定におけるプロセスに重きを置き、「より多数の合意が要」としている。この中で

鈴木　和隆
いわきビジネスアイデア・プランコンテスト実行委員長

いわき ビジネスアイデア・プラン コンテスト

⑤ What（何を）を大切に!!

1人プレゼンをしてみよう

前年のいわきビジネスアイディア・プランコンテストには、プラン部門に12件の応募があった。応募者の年齢は、24歳から69歳と幅広い。中国からの留学生の応募もあった。

例年、プラン部門で気になることがある。ビジネスとしての熟度にばらつきが相当あることだ。なぜだろうと考えてみた。

ばらつきの原因は、どうも5W2Hにありそうだ。

なぜ（Why）は、プランの背景、誰が（Who）は、事業主体（経営と営業）。応募者は、なぜ、このプランを提案するのか、熱い気持ちの部分だろう。

その上で、大切なのは、何を（What）だ。このプランでは、どんなサービス・製品を提供するのかを明確にする必要がある。ばらつきで一番目立つのが、このWhatである。

何を、消費者に提供するのかあいまいなプランがある。サービスや商品に、仮で良いので名称をつけると明確になる。前年度の場合、特に、地域活性化や市民活動などと結びつけたプランで、Whatがあいまいだった。

2Hも重要だ。どのように（How）に販売するのか、価格設定を幾らにするのか（How much）。この2Hが明確なプランは熟度が高い。前年度の場合、新しい生産方式やICT技術を応用したプランに、2H不足が目立った。技術を偏重し、販売が手薄になったようだ。

プランの熟度を上げるために一つ提案がある。「一人プレゼンテーション」をすることだ。ふろ場や車中ではだめだ。いわき駅前のコーヒーショップ「ドトール」が良い。応募者が想定する消費者を見つけ、その人に向かって頭の中で、自分のプランを説明してみよう。

すると不思議なことに、机上では気かつかなかった綻（ほころ）びが出てくる。その綻びを修繕すれば、熟度は一歩高まる。プランを練る場合も、現場が大切なのである。現場から、賞金50万円に、夢をぶつけろ!!

募集期間は、10月16日まで。詳しい内容と応募用紙などは、ホームページに掲載してある。http://www.iwaki-liaison.co.jp/IBPC2006/

電話での問い合わせは、事務局のいわきリエゾンオフィス企業組合＝電話（46）2720＝まで。

（すずき・かずたか＝いわきリエゾンオフィス企業組合理事長）

わがまち暮らしの情報

保険調剤・一般薬品販売
龍盛堂薬局
いわき市好間町下好間字叶田27-3

地域とともに…
笑顔で暮らす街づくり
平・小名浜・好間・四倉地区特集

使用済ポンコツ車
高
ナナ
有限会社 七
いわき市四倉町